



2020年5月7日

各位

会社名：富士石油株式会社  
 代表者名：取締役社長 柴生田 敦夫  
 (コード番号：5017 東証第一部)  
 問合せ先：総務部 IR・広報グループ 祖父江 高明  
 TEL：(03)5462-7803  
 URL：<http://www.foc.co.jp/>

### 2020年3月期通期業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ

2020年2月7日に公表の2020年3月期通期連結業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2020年3月期通期連結業績予想と実績値の差異 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2020年2月7日発表)	491,000	△1,200	△1,600	△1,000	△12.98
今回発表実績(B)	462,364	△28,668	△28,777	△29,058	△377.07
増減額(B-A)	△28,635	△27,468	△27,177	△28,058	
増減率(%)	△5.8	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	541,640	4,876	3,599	2,896	37.59

#### 2. 差異の理由

前回の予想は、第4四半期平均の原油価格(ドバイ原油)を65ドル/バレル、為替レートを110円/ドルの前提で策定いたしましたが、同期間のそれぞれの実績は、50.7ドル/バレル、108.9円/ドルとなりました。

新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な感染拡大に伴うエネルギー需要の減少に加え、3月上旬のOPECプラスにおける協調減産交渉の決裂等を受けて、原油価格は3月末には23ドル台まで暴落しており、これによる在庫影響(総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響)が203億円もの多額の原価押し上げ要因(前回予想は7億円の原価押し上げ要因)となりました。このことに加え、第4四半期中の石油製品市況の急激な下落により販売マージンが悪化したことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益について、前回予想を大きく下回る結果となりました。

以上